

はじめに

小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から道徳が教科化となる。道徳的諸価値について理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳性を養うことが目標として挙げられており、これまでの授業を見直し改善を図っていく必要がある。指導方法改善の一つとしては、読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習が考えられる。この学習では、教材の登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる考えた。そこで、子どもの実態に応じ、どのようにして道徳的価値を理解させたり、自己の生き方について考えを深めさせたりできるか、異なる学年の児童生徒に同じ資料を用いて授業実践を試みることにした。今年度の道徳教育研修会で行われた4年生の「百点を十回取れば」をもとに、小学校1年生、2年生、6年生、中学校2年生、3年生で研究委員による授業を行った。

1 市道徳教育研修会の研究授業から

- (1) 主題名 正直に生きる 1－(4) 反省、誠実・明朗
- (2) 資料名 「百点を十回取れば」(出典 学研 みんなのどうとく4年)
- (3) 資料について

本資料は、主人公のてつろうが、漢字テストで百点を十回とることができたらごほうびがもらえることになったことから始まる。てつろうは、ごほうびをもらうことを目標に漢字練習に励む。そして、9回連続で百点をとることができていた。しかし、10回目のテストで、「電池」という字を「電地」と書いてしまう。本当は間違えているのだが、テストの結果は百点になっていた。このことに気が付いたてつろうは、先生に本当のことを話しに行くか、話さずにだまっているかで迷ってしまう。悩んだ末に、てつろうは、漢字が間違えていることを伝えに行った。そして、正直なふるまいができたてつろうは、すっきりして明るい気持ちになることができた。

- (4) 本時のねらい

てつろうの心の動きを捉えることを通して、正直にふるまうことがなぜ大切なのか、その良さに気付かせ、正直に明るく伸び伸びと生活しようとする心情を育てる。

- (5) 本時の指導

展開と評価(◇)

過程	児童の学習活動	主な発問と予想される児童の発言	指導上の留意点	教材・準備
導入	1 本時の課題を捉える。	正直に話すことはなぜ大切なのでしょう。 ・うそはいけないから。 ・うそをつく信用してもらえないから。 ・怒られるから。	・事前に調査したアンケート結果を提示して、正直に話すことがなぜ大切なのかを考えさせる。 ・アンケート結果から、正直に言い出せずにいた人の気持ちを提示することで、ねらいの達成にむけての方向づけを行う。	アンケート結果
展開	2 資料から考える。 ①「十回続けて百点を取ったらごほうびを考えるといいかしら」と言われた時のてつろうの気持ちを考える。 ②漢字テストの間違いに気付いた時、てつろうはどんなことを思ったかを考える。	「十回続けて百点を取ったらごほうびを考えるといいかしら」と言われたてつろうは、どんな気持ちだったでしょう。 ・がんばるぞ！ ・絶対に買ってもらうんだ。 ・毎日漢字練習をしっかりとやろう。 漢字テストの間違いに気付いた時、てつろうはどんなことを思ったでしょう。 ＜正直に言う＞ ・ごまかしたらばれたときに怒られるかな。	・紙芝居で教材を提示して、主人公が葛藤する場面で教材を区切ることで、児童が主人公の葛藤する気持ちを考えられるようにする。 ・母親と約束した時のうれしい思いを確認しておくことで、ごほうびがほしいから頑張るという主人公の気持ちもおさえておく。 ・近くの友達と意見交換をする時間を設けることで、誰もが考えをもつことができるようにする。 ・正直に言おうとする気持ちと、ごまかしてしまおうとする気持ちの両方を十分にださせることで、人の心の中	紙芝居

前 段	③正直に話したてつろうはどんな気持ちになったかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・もやもやしているのは嫌だな。 ・うそをついてごほうびをもらってもうれしくないな。 <p><だまっている></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回くらいならごまかしてもばれないかな。 ・ここまで頑張ってきたから、ごほうびがほしい。 ・だまっていたいけれど、ばれてしまったときにお母さんは怒るかな。心配。 	<p>にある弱い部分にも気付かせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを发表或し、発表している友達の気持ちを考えて話をよく聞いたりして、意見を伝え合うことができる。 	
展 開 ・ 後 段	3 なぜ、正直に話すことが大切なのかを考える。	<p>間違いを話した後、てつろうはどんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正直に話してよかった。 ・怒られずにすんでよかった。 ・もやもやがすっきりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・葛藤する主人公の気持ちを考えさせた後に、資料の続きを提示する。 ・すっきりした気持ちに近い考えが出てこない場合、だまったままだったらどのような気持ちになっていたかを考えさせ、正直なふるまいの後のすっきりした気持ちを捉えさせる。 	
	4 主人公のてつろうへ手紙を書く。	<p>正直に話すことはなぜ大切なのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の人から信じてもらうため。 ・心配せずに、すっきりとした気持ちですごすため。 ・心配せずに明るく学校生活を送るため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時に考えた発問と同じ発問をすることで、資料を通して捉えたことをもとに、なぜ正直に話すことが大切なのかを考えられるようにする。 ・近くの友達と意見交換をする時間を設けることで、誰もが考えをもつことができるようにする。 	
		<p>今日の学習をふりかえって、てつろうさんに手紙を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勇気をだして正直に話をしに行ったことがすごいね。 ・忘れ物をして怒られるのがこわくてなかなか言い出せなかった。けれども、言った後はすっきりした気持ちだったよ。 ・正直に話して、心配なことがなく、明るい気持ちで過ごしたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙には、今日の学習を振り返って、自分の考えたことが入るとよいことを伝える。 ・考えを書くことに戸惑っている児童には、これから自分にもてつろうと同じようなことがあったらどうするかを考えて書いてもよいことを伝える。 <p>◇資料で学んだことをもとにして、正直にふるまうことの大切さや良さに気付くことができているか。</p> <p><手紙への記述></p>	手紙の用紙
終 末	5 教師が書いたてつろうへの手紙を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・正直なふるまいをした勇気をほめるとともに、教師自身の経験を語ることで、児童が正直に明るい心で生活することのよさを確認できるようにする。 	教師が書いた手紙


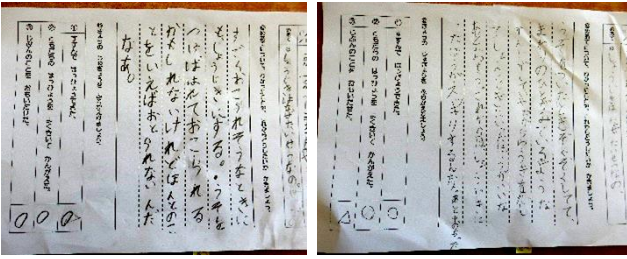
(6) 授業研究会の協議から

- 児童が本音で語っていた。何でも話せる安心感があり、学級の雰囲気すばらしい。
- 「すっきり」「もやもや」をキーワードに対比して考えさせたことは、正直に話すことのよさに気付かせることができ、効果的だった。
- 自己を見つめる時間として、授業前の自分と比べて考える時間があるとよかった。



2 授業実践例

○小学校1年生

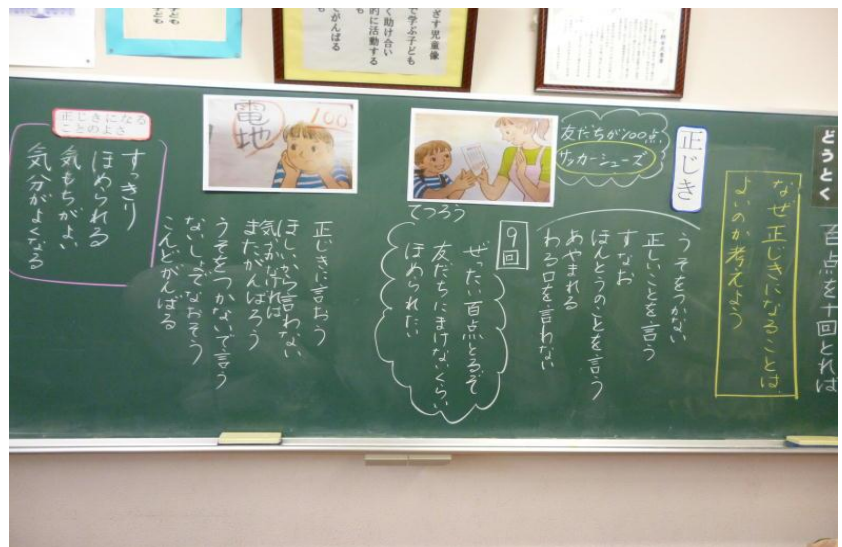
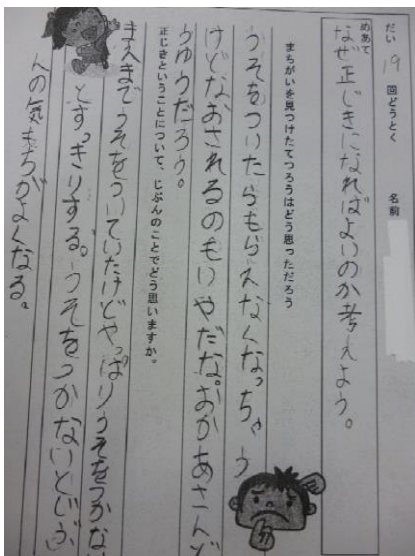
学習活動	児童の様子
<p>1 ねらいとする価値「正直」に関わる話合いをして、問題意識を持つ。</p> <p>①どんなときにうそをついた（ずるいことをした）ことがありますか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やってはいけないことをやったとき。（叱られそうなどとき） ・自分の思い通りにならないとき。
<p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p>「正直」はなぜ大切なのか、考えよう。</p> <p>3 資料（前半）を読んで、うそをつきたくなる（ずるいことをしたくなる）気持ちについて考える。</p> <p>②テストの間違いに気づいたとき、てつろうはなぜ困ったのでしょうか。</p> <p>③うそをついた（ずるいことをした）場合と、正直に話した場合では、てつろうの心はどう違うでしょう。</p> <p>3 資料（後半）を読んで、納得する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・100点でなくなったら、ご褒美がもらえなくなる。 ・ここまで頑張ったのに、台無しになる。 ・このまま黙っていたい。 ・黙っていたら、うそをつくことになる。 ・学校でばれなくても、お母さんに見せればばれるかもしれない。 ・本当のことを言わないといけない。 <p><うそをついた場合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご褒美をもらうとき、いやな感じがする。 ・褒められるたびに、いやな感じがする。 ・いつかばれるかも…とドキドキしそう。 <p><正直に話した場合></p> <ul style="list-style-type: none"> ・残念だけど、本当のことだからしかたがない。 ・すっきりする。気持ちがいい。 ・ずるをしない子になれそう。 <ul style="list-style-type: none"> ・正直に言ったら、てつろうはすっきりしたようだ。 ・てつろうが正直に言って、先生もお母さんもうれしそうだ。
<p>4 学習を振り返る。</p> <p>今日の学習でわかったことや、これから自分がどうしたいかを、書きましょう。</p> 	

<成果と課題>

- ・1年生でも自身の体験として置き換え易い教材なので、自身の心の葛藤を実感しやすく、本気で悩み考えることができた。
- ・「正直にすること」の難しさやよさ・大切さを感じ、今後の自身の生活で心がけたいと考える児童が多かった。

○小学校2年生

学 習 活 動	児 童 の 様 子
<p>1 本時の課題をとらえる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> なぜ正直になることが良いのか 考えよう </div> <p>2 資料「百点を十回取ったら」を読んで考える。</p> <p>①百点を十回続けて取ったらごほうびを考えてもいいと言われた時のてつろうの気持ちを考える。</p> <p>②10回目のテストの間違いに気付いたときのてつろうの気持ちを考える。</p> <p>③正直に言ったてつろうの行動からどうして正直に言うことが大切なのかを考える。</p> <p>3 今までの自分を振り返って、正直に行動することについてどう思うか、考える。</p> <p>4 教師がてつろうの担任だったら言ってあげたいことを伝える。</p>	<p>自分なりの正直とはどういうことかを考えて、授業に入れた。</p> <p>てつろうの意欲をよくくみ取っていた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんばるぞ ・絶対サッカーシューズを買ってもらうんだ。 ・絶対百点を取るぞ <p>自分のこと捉え、悩んでいる児童が多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく9回続いたのにどうしよう ・黙ってればわからない ・ずるをしたらだめだから言おう ・お母さんに見せたらわかってしまう ・またがんばればいいや <p>正直になることの良さを真剣に考えられた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すっきりする ・ほめてもらえる ・気持ちが良い <p>③から自分の行動を振り返ることができた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嘘をついてきたけれど、それからは正直に言おう。 ・嘘をついたけどだめだなと思った。 ・正直になってすっきりしよう。



<成果と課題>

- ・2年生なりの「正直」に対する価値観がもて、自分もそれに近づこうと考えられた児童が多かった。
- ・4年生の資料であったが、実際の自分に置き換えて考えさせることで、単に良いことだけを考えるのではなく、葛藤する気持ちを感じ取った上で、価値について考えられ、その後の行動に表れた児童もいた。
- ・低学年なので、どうしても価値のよりどころが、褒められることや、親にどう思われるか、ということを中心に考えがちなので、自身の価値観として身に付けさせるには時間が必要である。

○小学校6年生

学習活動	児童の様子
1 ねらいとする価値「正直」に関わる話し合いをして、問題意識をもつ。 ①「正直」とはどんな人か。 2 本時のめあてを確認する。 「正直」にするととは、どういうことなのか考えていこう	<ul style="list-style-type: none"> ・うそをつかない ・間違いを認める ・正直すぎてもよくない
3 資料「百点を十回とれば」を通して、「正直」について考えを深める。 ②てつろう君は、何を考え込んでいるのだろう。 ③てつろう君は、正直な人なのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・字の間違いを言おうかな ・このままにしておこう ・シューズを買ってもらえなくなる ・せっかく今まで努力してきたのに
4 てつろうの変容から、「正直」について考える。 ・すぐに認める正直 → 前向き・あきらめ ・間違いを認め、正直に言おうか真剣に悩む正直 ・さわやかな気持ちで生きていくための力になる	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに間違いを言わないのは、正直ではない。 ・後からでも間違いを言えたのは、正直である。 ・シューズが手に入らないなくて残念だけど、正直な気持ちでいる。 ・正直に話したが、シューズが手に入らないので、損をした。
5 本時のまとめをする。 ・「正直」を用いたことわざを知る。 実に明るいいで毎日を過ごすことよさを確認しよう	



【 板書 】



【 ワークシート 】

<成果と課題>

- ・導入（学びの必然性のある導入）について
 児童のこれまでの生活経験を想起させ、「正直」についての判断基準を明確にした。この活動で、一人一人が、本時の道徳的価値についての視点について、問題意識をもって話し合いを進める意欲付けができた。
- ・発問（考える価値がある問い）について
 本時は、「正直にするととは、どういうことなのか考えよう。」という学習テーマを設定した。うそやごまかしをしてはいけなくとよく分かっているが、自分に不利益になりそうになると自分の過ちを素直に認めることは、大人でも難しい。一見、相反する心の有り様に思われるが、主人公の立場や言動を手がかりに、「正直」について、多面的・多角的に考えることを通して、正直に行動したときの安堵感に気付くことができた。
- ・板書（構造的な板書）について
 児童の学び合いの流れを視覚的に捉えられるような構造的な板書を心掛けた。また、価値を掘り下げる多面的思考や自分の価値観を明確にする多角的思考は、チョークの色を変え、思考の深まりや対比を示す時は、簡潔な言葉と矢印等を用いて表現することができた。
- ・話し合い活動について
 児童の多くが、主人公は正直な人だという思いをもっている。2人組での話し合い活動は、あえて「正直」について深く掘り下げて多面的・多角的な話し合いを設定した。自分の考えを言葉で伝えることが苦手な児童や深い学びが難しいチームについては、メンバーを考慮する必要がある。対話的な活動が成立するのは、児童一人一人の意欲と自信が共に揃った状態の時であることを改めて認識することができた。
- ・書く活動について
 自分の道徳的思考を具現化するには、今までの自分の考えや授業の学び合いから、より深まりのある考えが拡充されていかなければならない。そこで、形式にとらわれずに、自由に書くようにしたところ、自分と友達考えの類似や相違に気付いたり、新たに考えたりしたことを図や矢印、吹き出し等の様々な表現で書き表すことができた。書く時間を確保しないことで、思考の流れを止めずに授業を展開できたが、記述内容や表現方法に個人差が出てしまうという課題もある。

○中学校2年生

・授業のねらい

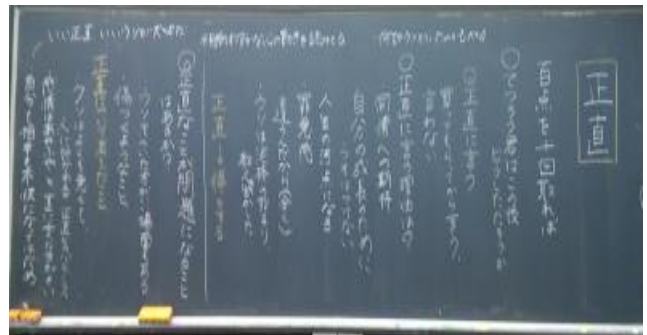
「正直」である価値について、場面に応じて考えることができる。

・価値を深める手立て

中学2年生の発達段階を考えると、「正直」に言った方がいい、ということは誰もが分かっている。なぜ「正直」に言うことがいいのか、資料をもとに「正直」に言うことの意味を考えたあと、あえて「正直」に言うことが問題になる場合を考えることで、「正直」の価値を深く考えさせた。さらに、教師の説話を通して「心にそった行動をする」ために、「正しい心のありよう＝相手を思いやる心」を育てていくことの大切さにも気づかせたいと考えた。

<成果と課題>

- ・生徒の感想に「今回の授業を通して『正直』について改めて考えることができた。」というものが多く見られた。また、自分の間違いを認めることなどの「正直」と、思ったことを口に出す「正直」とを区別することが大切であることを実感できた生徒が多かった。生徒はただ教えられるのではなく、自分たちで改めて考えることで、お互いの相違や共通点を確認し合うことができ、様々な知り方（行為の理由）を通して「道徳性」を学んだと言えるのではないだろうか。
- ・本研究を通して「考え、議論する道徳」の実践における、資料の選定と発問の精選、教師による切り返しの重要性を痛感した。同じ資料、同じ展開の授業を実践しても生徒の実態や指導者によって授業が大きく変容してしまうため、より一層の研鑽が必要である。



○中学校3年生

・主題 正直って何だろう？

・価値を深めるための手立て

【学習活動】

導入①「正直」という言葉について、よいイメージなのか悪いイメージなのか考える。

展開②てつろうくんの行動をどう思うのか考える。

③正直に生きていくことがどうして必要なのか考える。

④いつでも正直でいるべきなのか考える。

終末

☆グループで意見を交換することにより、自分の考えを深められるようにした。③で①の質問に戻り、いつでも正直にいたるべきなのか、深く考えさせた。



<成果と課題>

- ・導入①では、正直でいることはよいことだ、という意見が大多数であった。理由は、気持ちがすっきりするから、きちんとおけば後々自分によりよいことがある、というもの。自分のために正直である方がよいと考えている。
- ・展開②で、てつろうの行動について考えさせた。正直に言ってえらい、すばらしい、と賞賛の意見の他にも、「100点なのにもったいない」などの意見もあった。ここでは、何度も「これでシューズを買ってもらえるから、黙っていればいいんじゃない？」と揺さぶりをかけたが、③でも、やはり自分のためにならない、すっきりしないからという意見が多かった。ここでも自分のために正直でいる方がよいという考えが強かった。
- ・展開④で、正直でいることはよいことだとみんなは言っていたけれど、実際の生活ではいつでも正直にいたるべきだろうか、という質問を投げかけた。生徒は最初戸惑っていたが、グループで考えることによりどんどん意見を発表していた。最終的には、相手のことを考えた「正直」な心をもつことの大切さに気づくことができた。

意見の例：・友達が「〇〇さんが悪口いっていたよ」など聞きたくないことを言うてくるといやな気分になる。

・道で知らない人に友達の住所を聞かれたときには正直でいるべきではないのでは。こういう場合は相手のことを考えた自分の心に正直に、言わない方がよいと思う。

・人として生きる上で、正直な心をもつことは大切だと思う。どのような場面であっても自分の心に正直にならないと人は終わっていると思う。目指すは人のことを思える正直な人間である。



3 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・同じ資料を活用したことで、道徳的価値を理解させ深めさせるためには、発達段階や児童生徒の実態に応じて、資料の提示の仕方、発問、板書、ノート指導、学習形態等、指導の工夫が大切であることを確認することができた。
- ・自分の体験として置き換えやすい資料では、学年を問わず自分を投影して考え判断することができ、道徳的価値の理解を深めさせることができた。
- ・それぞれの発達段階による道徳性の違いを再認識することができ、系統的、継続的に指導することの大切さを再確認した。

(2) 課題

- ・道徳的価値に迫る読み物の活用や、問題解決的な学習・体験的な学習など、多様な指導方法を取り入れた授業をどのように展開すればよいのか。
- ・教科化に伴い、どのように子どもの姿を見取り評価をしていったらよいか。